

保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告書概要

I. はじめに

急速に少子・高齢化が進展、医療技術が進歩し、人々の療養の場が拡大する中、今後も保健師、助産師及び看護師には重要な役割を果たすことが期待されている。当改善部会では、こうした状況を踏まえ、保健師助産師看護師国家試験における諸課題及び改善すべき事項について平成19年10月より検討を行った。

II. 改善すべき事項

1. 看護師国家試験について

1) 必修問題について

必修問題は、看護師に重要な基本的知識及び技術を問うものであり、重要であることからこれらを強化し、現行より20問増やし、合計50問程度とし、総問題数は現行の240問を維持する。併せて出題範囲の拡大を検討すべきである。

2) 合格基準について

引き続き現行の合格基準を維持することとするが、今後とも試験問題の難易度の安定化に向けた工夫を行いつつ、試験結果の動向を注視し、必要に応じ検討すべきである。

3) 禁忌肢について

看護師として不適格な者を選別する方法の一つとして禁忌肢を含む問題の出題の是非について検討した。看護倫理に反する者や明らかに死に至らしめる行為を行う者を禁忌肢で選別することは困難ではないかとの意見もあり、現時点においては禁忌肢は導入せず、同様の趣旨を問う問題の出題を強化することとする。

2. 保健師国家試験について

・ 合格基準について

保健師をめぐる現状を勘案すると、試験問題の難易度を安定させることが重要であり、出題形式の工夫をまず行うべきであり、また出題基準改定の時期にもあることから、現時点においては現行の絶対基準を用いることとする。

3. 助産師国家試験について

・ 合格基準について

助産師国家試験における経年的状況を踏まえ、現行の絶対基準を維持すべきである。その一方で、試験問題の一層の精選が求められる。

4. 保健師助産師看護師国家試験に共通した事項について

保健師助産師看護師国家試験の難易度を安定させる方策として出題形式の改善及びプール制の推進に取り組むことが求められる。

1) 出題形式について

X2タイプや多様な選択肢の導入を検討し、判断の内容を問う形式や多数の選択肢群を複数問題で共用する形式など、多様な出題形式を導入する。状況設定問題は、複数の試験科目にまたがった出題を可能とするなど、より一層工夫すべきである。さらに、写真等の視覚素材の導入が望ましい。これらの改善は平成21年の国家試験より導入することが望ましい。

2) 試験問題のプールについて

試験問題の質や難易度を一定に保つためにはプール制が有効である。その活用に向け、看護教員以外の者からの公募も可能とし、看護関係諸団体に働きかけ、公募問題の増大を図るべきである。一方、難易度をコントロールする観点から既出問題の活用も有効であり、早急に活用に向けて検討し、実行すべきである。

5. 保健師助産師看護師国家試験出題基準について

1) 出題基準における改善事項

昨今の医療・看護等の実情を勘案し、専門用語や看護技術等を全般的に見直す。特に、薬剤の用法や薬効の理解、緊急時の対応及び看護倫理に関する項目の充実を図る。看護師国家試験では必修問題の出題範囲の拡大について検討すべきである。保健師国家試験では、地域・職域等の集団等への援助の際の判断力や災害・虐待等の社会問題への対応について強化すべきである。また、平成21年度より適用となる看護基礎教育カリキュラムの改正内容を踏まえて見直す。その際、カリキュラムの改正前後の卒業者ともに保健師助産師看護師国家試験の受験に際して不利益を被ることがないように、特段の配慮が必要である。

2) 改定出題基準の適用時期について

改定出題基準は、平成22年の第96回保健師、第93回助産師、第99回看護師国家試験より適用することが望ましい。

Ⅲ. 今後検討すべき事項

既出問題を良質なプール問題とするためには、適切な方法により評価することが重要であり、妥当な評価方法等について引き続き検討すべきである。また、個々の問題の評価を含めた試験実施結果全体の評価を次回の問題作成時に効果的に活用できるようフィードバックのあり方等を早急に工夫すべきである。

Ⅳ. おわりに

医療関係資格以外の資格試験や海外の医療関係資格試験の実施方法も参考にしつつ、IT技術の活用についても長期的視野に立って議論を進めていくことが望ましい。また、看護界全体で、より良い国家試験の実施、引いては看護職員全体の資質の向上のため、国家試験の諸課題に関して議論し、自ら改善に取り組んでいく機運を一層高めていくことが重要である。